われら姉妹都市

1 ニューウエストミンスター & 守口市

真田典昭

国と国との友好関係には、国民同士の理解が不可欠である。そして国民同士がそれぞれ相手の文化や社会について関心を高め、互いをよく知り合うためには、さまざまな交流がなければならない。その中から市民レベルの相互理解が生まれ、国同士の緊密な関係へとつながっていく。その意味で、姉妹都市のはたす役割は大きい。――今号から、日加間の姉妹都市の活動状況を、各都市の担当者に紹介していただくことにした。

守口市がカナダのニューウエストミンスター市と姉妹都市提携をしたのは、昭和三十七年十二月十二日。カナダとの姉妹都市提携としては全国でも始めて、という意義深いものであった。

ニューウエストミンスター市は、カナダの太平洋岸ブリティッシュ・コロンビア州にある古い町で、バンクーバーの近郊、太平洋の内陸約三十二キロメートルに位置し、フレーザー川が市の中央部を太平洋に注いでいる。人口は約四万五千人、面積は十八・一三平方キロメートル、地形はおおむね高燥だが、カナダ屈指の景勝地として有名である。

一方、大阪市の東北に隣接した守口市は、大阪平野のほぼ中央部、淀川の左岸に位置し、市街化が急速に進み、大都市のベッドタウン的性格をもつ超過密都市である。

人口約十六万五千人、面積十二・一三平方キロメートル、サンヨー、ナショナルに代表される弱電気産業を中心とする工業都市としての性格をあわせてもつ中都市でもある。

両市の提携は、昭和三十六年六月、木崎市長が全国市長会広域行政視察団の一員として欧米各国を視察の途次、カナダのトロントに立ち寄ったのがきっかけである。そのとき地方自治制度のあり方に多くの示唆を受けた木崎市長は、早速、当時の駐日カナダ大使のお骨折りでカナダ市長会あてニューウエストミンスターとの姉妹都市提携を申し入れた。それが一年半後に実を結んだのである。

再会を喜ぶエバース、木崎両市長。中央はエバース夫人。（守口市役所正面で）

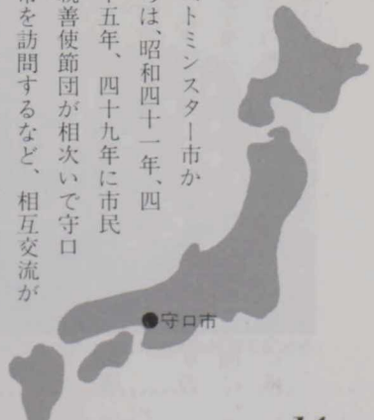
この都市提携を通じて両市が真に意図しているのは、幅広い市民相互の交流である。そこで、守口市では、市内の各団体を通じて広く市民に呼びかけ、昭和三十八年十一月二十九日、民間による都市提携の推進母体として守口市都市提携協会を発足させた。

以後、同協会が中心となって両市の友好と理解を深める各種の事業を積極的に行っている。とくに、両市民同士の心と心のふれあいをはかることが最も大切だとして、人物交流の促進に力を注ぎ、学生の姉妹都市への派遣と、市民親善使節団の訪加を実施してきた。

学生の派遣は、昭和四十年からスタートし、現在も二年ごとに実施している。学生は、姉妹都市で民泊家庭に入り、家族的な雰囲気の中で親交を深め、多大の成果をおさめている。

また、昭和四十二年から四年ごとに派遣している市民親善使節団も、市民同士の飾らぬ交流を深めるのに役立っている。

一方、ニューウエストミンスター市からは、昭和四十一年、四十五年、四十九年に市民親善使節団が相次いで守口市を訪問するなど、相互交流が活発に行われてきた。同市からの来訪はしばらく途絶えていたが、昨年九月、実に七年ぶりにニューウエストミンスター市からエバース市長夫妻をはじめ十八人の使節団が守口を訪問。守口での滞在はわずか三日間であったが、待望久しかっただけに、市をあげて歓待し、両市の変わらぬ友好を互いに確認することができた。



そして、新しい事業として、この春、ニューウエストミンスター市の教師を守口へ招請し、中学校で教べんをとってもらうかたわら、先生がたとの交歓会をひらく計画が本決まりとなり、両市の交流は再び活気を呈してきた。

かれこれ二十年を迎えようとしているニューウエストミンスター市との交流―。さらに新たな飛躍をめざして、積極的に人物交流を促進し、両市民間の親善と友好をよりいっそう深めていかなければならない。

現在のところ、文化面での交流はまずまずの成果をあげている。今後の課題は、産業・経済面の交流をどのような形ですすめていくかであると思う。

（守口市市長室広報公聴課主幹）